

Chordia Therapeutics

190A・100株

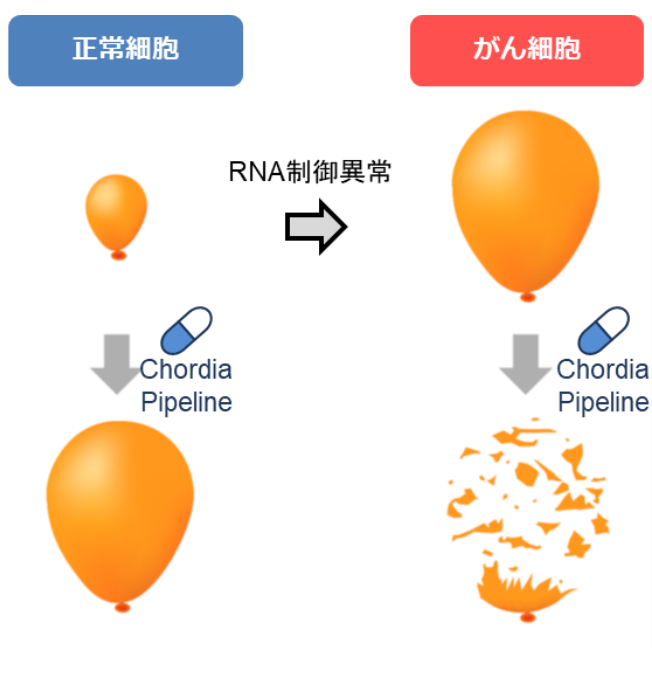
6月14日

東証グロース上場

RNA制御ストレスを標的とするがん治療薬を開発

Chordia Therapeuticsは、がん領域の研究開発に特化したバイオベンチャー。RNA制御ストレスを標的とするがん治療薬の開発等を手掛ける。代表取締役で創業者の三宅 洋氏は、東京大学大学院薬学系研究科専攻博士課程修了後、武田薬品工業にてHIVウイルス研究、がん領域の創薬に携わった。2017年11月に武田薬品工業より独立した。

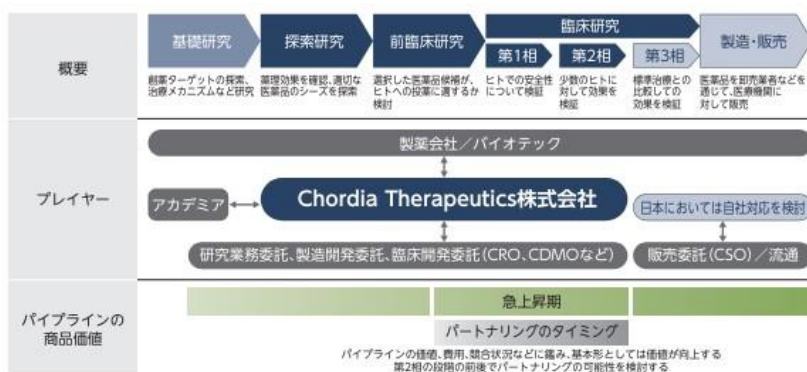
RNA制御ストレスとは、細胞内でRNAを生成する過程に乱れが生じ、異常なRNAが蓄積し、それが細胞へ負荷をかけている状態のこと。特にがん細胞ではRNAを生成する複数の過程が乱れ、正常細胞に比べてがん細胞では過剰に負荷がかかっている。同社の研究開発は、この新たに同定されたがんのストレス表現型である、RNA制御ストレスに焦点を当てている。同社のパイプラインは、RNA制御ストレスを標的とするコンセプト、すなわち低分子医薬品で異常RNAをさらに生成、蓄積させることでがん細胞に追加の負荷をかけて死に至らしめるという科学的なコンセプトに基づいている。RNA制御ストレスを標的としたがん治療法は未だ開発されていないが、同社は、このRNA制御ストレスに注目して低分子医薬品の研究開発を行っている。



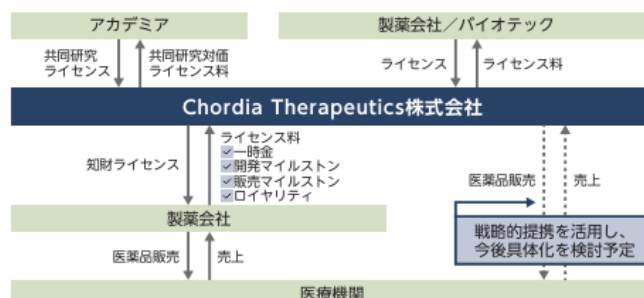
■ ビジネスモデル

同社は、新規抗がん薬の上市を目指して研究開発を行う創薬ベンチャー。未だに満たされていない医療ニーズの高いがん領域で、これまでになかった新しい作用機序を有する低分子の画期的医薬品（ファーストインクラス）の研究開発が主要な事業の内容。同社はマネジメントと研究業務（探索研究、前臨床研究、臨床研究）、特に候補化合物の探索、評価、最適化、臨床試験に集中して、ビジネスを進めている。

事業開発の基本戦略は、パイプライン（開発プログラム）の上市への蓋然性が高まったタイミングで日本国外の販売権についてライセンス交渉を行う事。2021年のBiotechnology Innovation Organizationの報告では、第2相臨床試験の成功確率が最も低いとされており、第2相臨床試験が成功してパイプラインの上市への蓋然性が高まったタイミングは、パイプラインの価値が飛躍的に高くなる。そのため事業開発の基本戦略としては第2相臨床試験の結果を確認できるタイミングで行うことが最適であると考えている。



同社が得る収入は、当面の間は、ライセンス契約に基づく提携企業からの収入が想定される。ライセンス契約の収入には、「契約一時金」「開発マイルストーン収入」「販売マイルストーン収入」「ロイヤリティ収入」がある。



■ パイプライン

現在、2つの臨床パイプライン（CLK阻害薬、MALT1阻害薬）に加えて、1つの前臨床研究段階のパイプライン（CDK12阻害薬）、探索研究段階のパイプライン2つ（GCN2阻害薬、新規パイプライン）、合計5つのパイプラインを保有している。そのうちMALT1阻害薬は全世界での開発及び商用化の権利を小野薬品工業に導出しているが、その他のパイプラインは全世界での権利を同社が有している。

| プログラム名 (ターゲット) | 主要適応がん種 | 開発状況と開発タイムライン | 開発及び商用化 の権利 | | | |
|--------------------|---------------------------------|----------------|----------------|------|---------|---------|
| | | | | 探索研究 | 前臨床研究 | 第1相臨床試験 |
| CTX-712 (CLK) | 急性骨髄性白血病(AML)、 骨髄異形成症候群(MDS) | 日本 (CL-01) | [Progress bar] | | | Chordia |
| | | 米国 (CL-02) | 第1/2相臨床試験実施中 | | | |
| | 日本 (CL-01) | [Progress bar] | | | | |
| | 米国 | [Progress bar] | | | | |
| 卵巣がん | 日本 (CL-01) | [Progress bar] | | | Chordia | |
| | 米国 | [Progress bar] | | | | |
| その他 固形がん | 日本 (CL-01) | [Progress bar] | | | Chordia | |
| | 米国 | [Progress bar] | | | | |
| CTX-177 (MALT1) | リンパ系腫瘍 | 米国 | [Progress bar] | | | 小野薬品工業 |
| CTX-439 (CDK12) | 固形がん | | [Progress bar] | | | Chordia |
| GCN2 | 血液がん、固形がん | | [Progress bar] | | | Chordia |
| 新規 パイプライン | 血液がん、固形がん | | [Progress bar] | | | Chordia |

リードアセットであるCLK阻害薬CTX-712は米国での第1/2相臨床試験、小野薬品工業に導出したMALT1阻害薬CTX-177は米国での第1相臨床試験を実施している。

2020年12月に小野薬品工業との間で全世界におけるCTX-177の独占的ライセンス契約を締結した。この契約に基づき、2020年12月に8億円の契約一時金を受け取った。また、2023年2月には初回開発マイルストーンとして25億円を受け取っている。今後、開発が順調に進んだ場合には、さらなる開発マイルストーン収入を受け取るだけでなく、申請・承認された後で販売マイルストーン収入やロイヤリティ収入を受け取る事ができる。

※第1相以降の開発マイルストーンおよび販売マイルストーンは最大で496億円となる。

2020年12月
CTX-177に関する包括的なライセンス契約の締結



■ 中長期の業績見通し

23年8月期業績は、小野薬品工業からCTX-177の初回開発マイルストーンとして25億円を受けとり、同額が事業収益として計上され、経常損益は黒字化した。一方、24年8月期業績は、事業収益はゼロ、経常損失が22.7億円の見通しとなっている。

同社がターゲットとするがん領域は依然としてアンメットメディカルニーズが高く、研究開発を進める抗がん薬は、従来の治療体系を大幅に変える可能性があるものであり、長期的に業績は大きく飛躍する可能性がある。

パイプラインの研究開発は順調に進捗している。CLK 阻害薬CTX-712 については、日本における臨床第1相試験の症例登録を完了させることが出来た。米国における血液がんでの第1/2相臨床試験についても順調に推移しており、24年2月末時点においては12症例の症例登録を行っており、現在は更なる試験の進捗に向けた活動を進めている。

MALT1 阻害薬CTX-177 については、20年12月に小野薬品工業と締結したライセンス契約に基づき、小野薬品工業が米国において再発または難治性の非ホジキンリンパ腫もしくは慢性リンパ性白血病の患者を対象に第1相臨床試験を実施している。

現在非臨床段階にあるCDK12阻害薬CTX-439については、臨床試験開始に向けての安全性試験や治験原薬の製造を終え、現在次のフェーズの準備を進めている。

| 決算期 | 事業収益 | 業績推移 (百万円・%) | | 純損益 | 伸び率 |
|-----------|-------|------------------------------------|---------|---------|-----|
| | | 伸び率 | 経常損益 | | |
| 2020/8 | - | - | ▲ 974 | ▲ 976 | - |
| 2021/8 | 800 | - | ▲ 525 | ▲ 527 | - |
| 2022/8 | - | - | ▲ 1,776 | ▲ 1,779 | - |
| 2023/8 | 2,500 | - | 225 | 223 | - |
| 2024/8予 | - | - | ▲ 2,278 | ▲ 2,280 | - |
| 2024/2 2Q | - | - | ▲ 801 | ▲ 802 | - |
| 予想EPS/配当 | | 単独：-円/0.00円 ※予想EPSは上場時発行済株式数で試算 | | | |

免責事項(ディスクレーマー)

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかなるを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山五丁目13番3号

株式会社フィスコ

電話: 03-5774-2443(情報配信部) メールアドレス: support@fisco.co.jp